

2010年 11月 10日

和泉市長 辻 宏康 様

関西自然保護機構 会長 石井 実
連絡先：大阪市東住吉区長居公園 1-29
大阪自然史センター 受付

TEL: 06-6697-6262

要 望 書

貴台におかれましては信太山の自然環境と生物多様性の保全について、日頃から積極的に取り組んでおられることに敬意を表します。

関西自然保護機構は、研究者を中心とした自然保護と保全について考える学際的な団体として、1978年の設立以来、シンポジウム等の開催、会誌の発行、研究助成など関西地域を基盤に幅広い活動を行なっているところです。特に信太山に関しては2009年10月に日本生態学会近畿地区会、信太の森FANクラブなどともにシンポジウム「信太山丘陵の保全と活用」を開催し、その主要内容は2010年6月に発刊された関西自然保護機構会誌32(1)号(別添)に特集されています。

信太山は草地、谷あいの貧栄養な湿地群、ため池、水田(跡地)、里山林の複合した里山環境です。ハッチョウトンボやカスミサンショウウオ、サギソウやトキソウなど多くの貴重な動植物の生息地であり、大阪府南部の丘陵群の中でも最も重要な地域の一つです。さらにこれらの自然を基盤として当該地域には多くの伝説や史跡、伝統芸能が育つなど、文化的にもシンボルとなる重要な自然でもあります。

つきましては、かけがえのない信太山地域の自然環境とその恵みを将来に引き継ぐために、回復不能な開発による破壊と放置による劣化とを予防する見地から以下のことを要望いたします。

要望内容

1. 信太山の和泉市市有地に生息する生物の現況およびその生息環境について、2009年から2010年の調査をさらに継続して調査を行うこと。
その上で研究者等へのヒアリングを行い、信太山市有地の自然環境の保全に必要な施策について早急に検討・協議していただくこと。
2. 現在、草地や湿地から森林へと遷移しつつあるために、ヤマトホシクサやミミカキグサをはじめ明るい貧栄養湿地環境を必要とする植物群や、そこをすみかとする動物などにとり、危機的な状況となっていることから、草地や湿地環境をどのように将来的に維持管理すべきなのか、中長期の事案と今後数年内に緊急に行うべき事案とに区分して、研究者らとともに保全方針を早急に策定いただくこと。
3. 現在保全策が行われている惣ヶ池湿地および自衛隊所有地、聖神社の神社林、大阪市立信太山青少年野外活動センターなど、周辺の緑地やため池群と一体的に地域生態系の保全を目指し、関係機関との協議をしていただくこと。
4. 市民ならびに行政内部において、信太山の生物多様性保全上の価値や重要性について積極的に広報し、保全への協力を呼びかけていただくこと。